

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年5月30日(2013.5.30)

【公開番号】特開2013-64156(P2013-64156A)

【公開日】平成25年4月11日(2013.4.11)

【年通号数】公開・登録公報2013-017

【出願番号】特願2012-284268(P2012-284268)

【国際特許分類】

C 08 G 63/183 (2006.01)

D 01 F 6/92 (2006.01)

【F I】

C 08 G 63/183

D 01 F 6/92 301K

【手続補正書】

【提出日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

実施例2～5

リン化合物を添加する時期、添加量を変更した以外は実施例1と同様にポリエステルを重合、溶融紡糸した。リン化合物の反応系への添加は、所定の攪拌トルクの85%となつた時点(減圧を開始してから約2時間30～40分の時点)で、ポリエチレンテレフタレートシートを射出成形して作成した厚さ0.2mm、内容積500cm³の容器にポリマーにリン化合物を詰めて、反応缶上部より添加した。実施例2では、わずかに結晶性、色調が劣ったが、それ以外では得られたポリマーは、結晶性、色調、熱安定性に優れていた。また、実施例5では、わずかに紡糸時の口金孔周辺の堆積物がみられ、実施例2、5ではわずかに糸切れが認められたが、操業上問題ないレベルであった。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

実施例6～7

実施例2、5で得られたペレットを、150～3時間真空乾燥した後、固相重合を行つた。固相重合は、下部から不活性ガスなどが流通できる構造を持った管状の装置を用いて、100Paの減圧下、225℃で12時間実施した。この固相重合チップを実施例1と同様にポリエステルを重合、溶融紡糸した。実施例6～7では、わずかに結晶性、色調が劣ったが、それ以外では得られたポリマーは、結晶性、色調、熱安定性に優れていた。また、紡糸時の口金孔周辺の堆積物及び糸切れはほとんど認められなかつた。